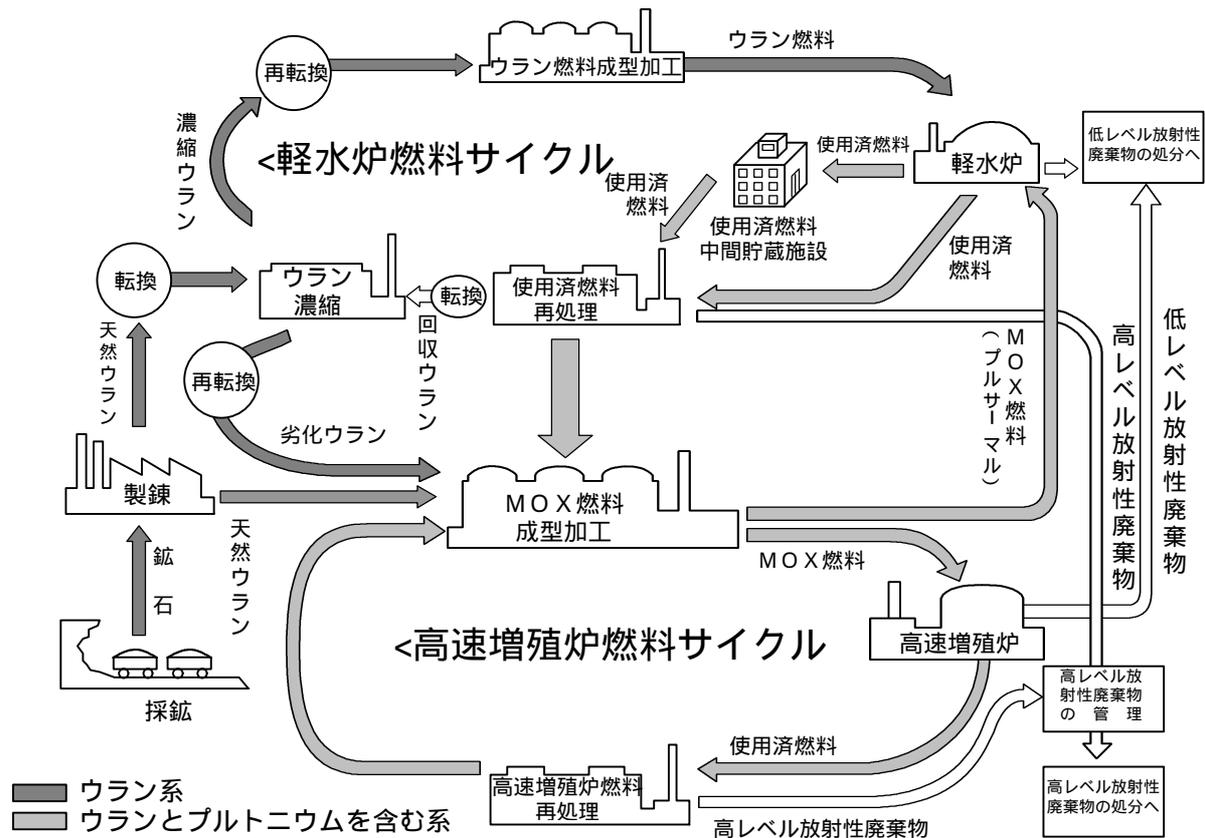


核燃料サイクルの概念



六ヶ所核燃料サイクル施設の概要

(平成12年11月現在)

事業	再処理事業	加工事業	廃棄事業	
		ウラン濃縮	低レベル放射性廃棄物埋設	高レベル放射性廃棄物管理
能力	最大再処理能力 800トン/年 (建設中)	分離作業能力 1,050tSWU/年 (注1) 最終的には、 1,500tSWU/年	埋設量 200リットル 3缶 40万本相当 最終的には、 300万本相当	高レベルガラス 固化体貯蔵能力 1,440本 返還数量に応じ て増設を予定
備考	国内の軽水炉から は年間約900 トンの使用済燃料 が発生する。	100万kW級の軽 水炉が1年間に 必要とする濃縮 ウランの分離作 業は、約120t SWUである。	平成10年度末で の国内原子力発 電所の保管量は 約50万本相当で ある。	本施設に貯蔵す るガラス固化体 は、海外再処理 に伴い返還され るものである。 (注2)

(注1) SWU (分離作業単位) : ウランを濃縮する際に必要となる仕事量

(注2) 海外から返還される廃棄物には、高レベル放射性廃棄物以外に低レベル放射性廃棄物もあり、現在、返還時期及び量を調整中。

(出典) 日本原燃株式会社パンフレット等より作成